

# 1 国立赤城青少年交流の家について

国立赤城青少年交流の家は、昭和45年4月に全国7番目の国立青年の家、「国立赤城青年の家」として誕生し、昭和46年4月の開所から数えて、令和3年4月に50周年を迎えました。

国の中央省庁等改革により平成18年4月に「独立行政法人国立青少年教育振興機構」に移管され、「国立赤城青少年交流の家」となりました。

当所は赤城山の南麓、標高約530mにあります。赤城山は群馬県内では上毛三山(赤城山、榛名山、妙義山)の一つとして県民に親しまれ、全国的にも百名山の一つとして多くの人が季節を問わず訪れる人気の山です。その赤城山南麓に広がる森林に囲まれた244,246.61m<sup>2</sup>の広い敷地に多種多様な施設・設備を有し、眼下には関東平野が首都圏まで見渡せ、県内の榛名山や妙義山をはじめ多くの山々、遠くは八ヶ岳から秩父連山等の山々、そして富士山も望むことができます。

当所は、豊かな大自然の中、体験と交流の場を提供し、青少年の体験活動の充実に努めています。また、青少年の健やかな成長にとって体験がいかに重要であるかを広く家庭や社会に伝えています。

## 所章



△は、赤城の山と、交流の「家」をかたどり、同時に青少年の向上心を表しています。

Aは「Akagi」のA、

○は、赤城の地から展望した首都圏を意味するとともに、青少年たちの友情に満ちた連帯と和を示しています。

## マスコットキャラクター「ササビー」



お掃除



お辞儀



読書



手洗い

ムササビの特徴を残しつつ、愛嬌があり親しみやすいフォルムを考えました。服装はアウトドアをイメージし、色は赤城の「赤」(見た目がきつくならないように朱色)、青少年と空の「青」、自然豊かな「緑」と、アクセントとして赤城山のレンゲツツジの色(体と同系色になってしまうため黄色寄り、太陽もイメージ)を使用しました。コンセプトは「好奇心旺盛で野外活動が大好きな子」。趣味はからっ風に吹かれながら山の上を滑空することや、山でお気に入りの木の実を見つけて葉っぱで作ったポーチにコレクションすることです。

**デザイン：箕輪 茜さん**

マスコットキャラクター「ササビー」新イラスト募集で最優秀賞(2018年)